

2016(平成28)年5月18日

館外講座だより24



2001年に開講したバスツアーも37回目を数えました。荒川は首都圏の中央部を流れ、葛飾区の西縁を画する、治水や利水の面できわめて重要な河川です。今回は、まず埼玉県立川の博物館にて縮尺1000分の1の「荒川大模型173」で荒川の全貌を学びました。その後秩父盆地を經由して、荒川支流の高麗川沿いに下流に向かいながら災害の歴史や産業を学びます。入間川沿いにある飯能市郷土館では、飯能河原に降りて河川の景観を観察しました。関東平野の地形や東京低地に関わる河川の変遷を再認識する契機となれば幸いです。

みなさんのアンケートから 女性○、男性●、(参加回数)です。

◆埼玉県立川の博物館・荒川上流部の景観

○前々から行きたくて計画しましたが、交通路で頓挫ばかりしていました。今回、これだと思って応募し、14日の説明会で期待さらにふくらみ、今年の2月に学芸員羽田武朗さんの講座を思い出しています。模型はよく出来ていて判り易く感動しました。もっと時間をさいて詳細にみてみたいものです(初参加)

●荒川のジオラマ縮尺は解りやすく、説明の奈良さんも葛飾地区の説明に力を尽くしてくれました。筏流しや、特別展示もよかったです(7回目)

●秩父より東京湾迄の川の流れ初めて知る。景観自然美しさ(3回目)

○2度目の川博なので→源流→河口までの説明もうんと興味をひきました。駐車場脇にはキジも出てきて、しきりに恋歌を唄っておます。大きなヒキガエルのツガイの展示も私にとっては、大喜び!!(3回目)

○川と人とのかわり・川の治め方、あらためて深く感動しました。キジを発見・姿・形・鳴き声に感動。鉄砲堰の放水と林業とのかわりが面白く認識できました(33回目)

○大模型の下流にスカイツリーと江戸城を加えてほしい。カジガエルがかわいかった(7回目)



学芸員の羽田武朗さん：源流域から説明してくださいました

○千分の一荒川の模型は、山のけわしさ、扇状地、川の付け替えなどよくわかりました。ここ博物館から葛飾の遠さ実感。説明がわかりやすかった。緑に囲まれ、目の保養に成りました。天然のキジに遠目ながら会えました。ラッキー!(10回目)。

○立体的に荒川を体感出来て楽しかった。川が人の都合によって変えられ利用され、それにより又人間がくるしむ。自然と人のチエくらべ(10回目)

○川の巨大模型は、説明をたっぷりとして頂きよく分りました。鉄砲堰の映像が分り易かった。特別展もていねいに展示されていたし、タイトルに味が有ってよかった。館のスタッフ作とのこと(24回目)



かわはくボランティア奈良義之さん：最下流の東京低地からスタートです

◆道の駅 みなの・果樹公園 あしがくぼ～高麗川流域

- 山間部の道の駅らしくのどかで良い感じ…。つばめの母さんの巣ごもりにホッカリ。そばとうどんをゲット、楽しみ、楽しみ♥ (3 回目)
- A ランチを食べましたが、親類の小母の手打うどんを思い出しました。果樹公園では鹿肉のジャーキーが置いてあったので購入しました (4 回目)
- 尾崎学芸員さん、ご苦労様でした。バスツアーのために乗り込んでの説明、飯能の街の様子、山々に囲まれ自然災害のすごさ、よく伝わりました (11 回目、ほか多数)
- 吾野地区水害の話がリアルで想像の範囲を超えていました。わかりやすい話でした。現場をみられてよかった (5 回目)
- 自然の猛威、水害、崩落等、バスを止めての説明に驚きと恐怖を感じました (2 回目)
- 森林について針葉樹と広葉樹についてが良く分かり、時代の流れによる衰退が分りました。人と木、河川のかかわりのつながりを改めて認識しました (9 回目)
- 『農民的林業』に関しては知識がありませんでした。米の取れない地域は産物売って、お金で年貢をおさめる事を、林業も同様であったことが、良く理解できました。丘陵地帯の斜面崩壊のすさまじさを現地を見てより理解出来ました。(14 回目)
- 車内で地形の話が分かりやすかった。山の木を切り、山を整備していたのが外国材にかわり、山が荒れていくのが残念です (14 回目)
- 地球は「氷河期」に向かっている。何万年か過ぎると、次の温暖化で海進が起こるだろう。そのとき廃線になった秩父線吾野駅のホームから、誰か線路に釣り糸をたらし、鱸を釣っているかも知れない(?回目)



学芸員の尾崎泰弘さん



天覧山を望む

◆飯能市郷土館

- 展示物が見易く配置され、非常に理解できた (初参加)
- イカダ乗りのお兄さん (フィギア?) なかなかのマッチョ。力ずくのお仕事だから、当然といえば当然カナ? (3 回目)
どうやって運ばれたのでしょうか? (初参加)
- 深川の木場ではなく千住迄の話 (千住生まれの自分にとって) に感動した。彰義隊の話など郷土の歴史、西川材など (3 回目)
- 山地と平地が出合い、山からの細め (巾 1m) の筏を組みたして長い筏にした中継地だったことを学びました。下流の深川木場 までには、更に長くなったことも (10 回目)
- 材木の運搬方法を模型で見てより理解できました。約 1m×10m の筏、24 枚を一組に流したのには驚きでした。飯能の焼物は初めて知りましたが、とても美しいと思いました。吾野・高麗～飯能～東京低地への全体像を見て、丘陵・台地・低地の知識を整理することができました (14 回目)
- 山一つ越えると青梅とか、遠い所と思いましたが、説明を聞き近さを感じました。飯能市の歴史がわかりました (14 回目)
- 時代の流れと発展の歴史を勉強しました。政策・山林問題・解決策とは? (2 回目)

車中でお聞きした飯能市の地勢をジオラマで確認します。



◆飯能河原

○石ころだらけの河原に降り、歩いたのは初体験でした (4 回目)

○入間川を見た！ 水はなまぬるい、流れもゆるい。今日の目的はここで果たせたかのような気分になった。この河原では 7 月に花火大会があるそう。何とも風情がある河原だ

(13 回目)

○河原には河原ナデシコがかれんな花を咲かせていました。戦後の遠足をおもいだしました

(7 回目)

○流れがゆるくなり、広い河原があり、河原の石は削られ角は取れ、平に近い石が数多く見られました。昔はボート場や遊戯施設があったそうで、たいへんにぎわっていたそうです。今日は晴天でバーベキューの方、水遊びのあとの甲羅干し？の方々がみられました (10 回目)

○あの河原に水があふれる事を考えるとゾーッとしました。子供の頃は河原での遊びが楽しかったことを思い出していました (14 回目)

○谷戸がよくわかりました。河原をみる子供の頃を思い出し、中に入って遊びたくなります (14 回目)

川にそい 峠をこえて 山地ゆく はや目の前に 飯能市



五月晴れ 川を学び バスの行く
風かきる 川の流れと 人の知恵
魚群れて 流れは細き 入間川

明治 43 年 (1910) 水害は、「飯能方面、湖水の如し」と称された大水害でした。

◆その他自由欄

○バスの運転の方がとても安心できる運転で、有難く思いました (初参加)

○入間川という名に引かれて参加しました。このバスの旅で山地、丘陵、台地がよく分りました (10 回目)

●風水は古代の地理学であり、都市計画であると考えています。地図をながめて、皆さんも古代に思いをめぐらせてください (7 回目)

○飯能市でも近年に大きな水害を受けていたことにおどろきました。昨年の常総市の災害は、都心に近いところで巨大災害を受けたことに、自然の脅威を知らされ田ばかりだったので、世代を越えて伝えて行くことの大切さを改めて感じました。地震いつ来るか分らず、大きなゆれにはついうろたえてしまいます。心構えも大変 (24 回目)



カワシロウ

TOUR DATA		
時間	経過	時間
7:32	博物館出発	
7:48	四つ木IC	
8:05	川口JCT	
4:00	大泉JCT	
8:45	高坂SA	17分
9:18	花園IC	
9:27	埼玉県立川の博物館	103分
11:40	道の駅 みなの	78分
13:32	果樹公園 あしがくぼ	17分
14:43	飯能市郷土館	77分
16:18	圏央道狭山日高IC	30分
16:40	菖蒲PA	22分
17:43	四ツ木IC	
17:58	博物館着	
東京ハッセンジャー(株):フェニックス号		
ドライバー:橋本 和之 さん		
走行距離: 266 km		
応募47名、当日参加44名(倍率1.0倍)		
参加費3700円/見学実費240円		

ツアー後記

晴天に恵まれた秩父路、4 度目の訪問となる埼玉県立川の博物館では、羽田さん、奈良さんから「荒川大模型 173」をじっくりご説明いただきました。そして午後は、芦ヶ久保からの車中、飯能河原を含め、尾崎さんには実にご丁寧なご説明をいただき、一同感謝の念に堪えません。平時には穏やかな河川も、災害時には牙をむきます。次回のバスツアーは、防災の日に茨城県常総市とつくば市の防災科学技術センターを訪れ、災害の教訓を学びます。首都圏の水がめである利根川水系ダム群の貯水量も気になります。備えあれば憂いなし…、またおめにかかりましょう。

担当学芸員 橋本直子

博物館専門調査員 勝田真幸 補助 浅羽 葵偉



葛飾区郷土と天文の博物館

〒125-0063 東京都葛飾区白鳥3-25-1

TEL 03(3838)1101 <http://www.city.katsushika.lg.jp/museum/>